

◎ 令和6年度 研修主題

学びを自覚し 学びを生かそうとする 子供の育成

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業改善～

総合的な学習の時間：『田んぼでつながる^{マイ}米ライフ』**1 はじめに**

本校では、30年前から「つばき田んぼの会」の方々による、米作りの学習活動についての指導・支援を受けている。本年度、5年生は餅米を籾から育て収穫し、最終的に「椿西作物ミュージックフェスティバル」で販売したり、自分たちで餅つき大会を開催したりする活動を行う予定である。この学習では、SDGs・萩ジオパーク・ESDの視点を取り入れ、5月から1月までの9か月間という長い期間に渡って、児童の毎回の「気づき」「疑問」「振り返り」を次時の学習に結び付けることでPDCAサイクルを回し、より探究的な学びを実現することができる。また、理科の「発芽の条件」や社会科の「米作りのさかんな地域」など他教科と結び付けた教科横断的な学習が展開できる。このような学びを実現できるよう、教職員や保護者だけでなく、地域の「ヒト」「モノ」「コト」と連携・協働をすることで、より効率的にカリキュラム・マネジメントを進めることが必要となる。加えて、稲作の体験活動を椿地区についての理解を深めながら進めることで、農業に関する意欲・関心を高めると共に、郷土愛を更に深めることにつなげたいと考える。

2 単元名『田んぼでつながる^{マイ}米ライフ Ver 3 ～収穫した餅米をたくさんの人に届けよう！～』**3 単元・求める子供の姿について**

○ 本学級の児童は、意欲的に学習に取り組むことができる。特に、自分の考えを発表する場面では、積極的に挙手をし、堂々と伝えることができる。ペア学習やグループ学習でも、考えを友達と積極的に交流させることができる。しかし、自分の考えをもてずに友達の考えに流されたり、自分の考えをもっていない、自信がもてず伝えることができなかつたり、自分の考えは言っても友達の発表を聞くことが苦手な児童も一定数いる。また、4月に行われた山口県の確認問題では、国語科・算数科共に、条件の中で自分の考えを論理的に説明する問題の正答率が県平均を下回る結果であった。実際の授業場面でも、発表をする際に考えがまとまらずに、単語のみで発言したり、思い付いた言葉を思い付いた順番で話してしまったりするため、相手に考えが伝わらないことが多い。そのため、自分の考えを整理し、論理的に文章を組み立てる力を身に付けることで、自分の考えに自信をもち、相手に分かりやすく堂々と自分の考えを伝えられるようにしたい。

自分たちで収穫した餅米をより多くの人に届けるため、椿地区の米作りの課題について考えたり、「つばき田んぼの会」の方々や購入してくれる人などの様々な人と関わったりする活動を通して、児童の郷土に対する愛着がより一層深まるようにしたい。

- 本單元では、収穫したお米を販売するための準備と宣伝方法を考える活動を行う。宣伝する方法としては、「餅米を使ったレシピを紹介する（家庭科）」「収穫したお米のキャッチフレーズを考えポスターを作る（国語科）（図画工作科）」「簡単なイメージソングを作り、会場で流す（音楽科）」「PR動画を作成する」など様々なものが考えられる。今回は宣伝の一つとして、iPad およびプログラミングロボット「mBot」も取り入れる。作成したプログラムで mBot を動かし、そこで生じる「次はどうすれば良いか」といった課題を、友達と試行錯誤しながら協働的に解決する過程を通して、児童の探究的な学びを実現させたい。
- そこで、指導にあたっては以下のことに留意したい。
 - ・ プログラミングに苦手意識をもっている児童のために、事前に mBot を操作する時間をとり、安心して学び合いに参加できるようにする。
 - ・ 餅米を宣伝するために方法を「ポスターグループ」、「mBot グループ」、「動画グループ」などに分かれて活動することで、一人ではできないことも、全員で分担することで実現させることができることを実感できるようにする。
 - ・ 班ごとに出てきた成果と課題を毎時間の終末で共有・検討し、その解決に向けて協働的に取り組むことで、一人ひとりの学びがつながるようにする。

4 目標

- 餅米をよりたくさんの人へ届けるための工夫を主体的・協働的に考え、実現させようとしている。
- 餅米をよりたくさんの人へ届けるための課題をもち、課題解決のための方法を他教科と関わらせながら考え実行している。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 餅米販売に向けての準備とこれまで他教科で学習したことを結び付けている。	・ 餅米の販売に向け、宣伝する方法を選び、分かりやすく表現している。	・ 餅米販売の準備や販売を主体的・協働的に進めることができる。

6 指導計画(全16時間)

第1次 mBot を扱う技能を身に付け、販売の際に生かす方法を考える。(5時間)

本時【5 / 5】

第2次 「椿西ミュージックフェスティバル」への餅米の出品に向けて、販売の準備や宣伝の準備をする。(8時間)

第3次 「椿西ミュージックフェスティバル」に出品する。(2時間)

第4次 学習を振り返る。(1時間)

7 本時案【日時：令和6年10月30日 5校時 於：5年1組教室・高学年オープンスペース】

- (1) ねらい ・餅米販売に向けて、mBot の有効な活用方法を考え伝え合うことができる。
 (2) 準備 ・iPad(児童数) ・mBot ・ワークシート
 (3) 展開

学習過程 学習活動・学習内容	子供の思考の流れ 引き出したい子供の反応	○教師の働きかけと目指す 子供の姿
1 本時の流れとめあてを確認する。(5分) ・前時までの学びを振り返る。 ・身の回りのロボットについて想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回 mBot を動かしたり音楽を流したりしたね。 ・どうやったら販売する時に mBot を使えるかな。 ・ファミリーレストランに食器を下げるロボットがいたよ。 ・携帯ショップの前にタブレットを持ったしゃべるロボットがいたのを見たことがあるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の「振り返り」で「餅米販売に mBot を生かせそうなこと」を書かせておき、最初に紹介する。 ○身の回りで使われているロボットについて想起させることで、より多様なアイデアが出るようにする。
もち米販売の時に mBot を活用する方法を考えよう。		
2 3人組(9グループ)で mBot の活用方法を考える。(40分) ・プログラムを組み、実際に動かしながら考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・買ったお米をその人のところまで届けることはできないかな。 ・お米は重たくて運べないかもしれないな。 ・mBot を2台使うのはどうだろう。 ・このプログラムでは○○が上手いかなにかないから、次は△△を変えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループをまわりながら進捗状況を確認し、必要に応じて助言することで、どのグループもアイデアを発表できるようにする。
(本時) グループで考えた mBot の活用方法を発表し合おう。		
3 考えたプログラムを発表する。(30分) ・実際に mBot を動かしながら発表する。 3グループ発表 ↓ 自由に交流	<ul style="list-style-type: none"> ・○○さんのグループのアイデアが面白そうだけど、実現させるにはどうしたら良いだろう。 ・△△さんのグループの考えは全然思い付かなかったよ。 ・□□さんのプログラムをもっと見てみたいな。交流の時間にじっくり見せてもらおう。 ・交流の時間に◇◇さんに質問してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に mBot を動かしながら発表させることで、それぞれの考えに対するイメージがもてるようにする。 ○3グループ発表するごとに質問し合ったり、プログラムを組み直したりする時間を設け、児童同士の学びがつながるようにする。
4 本時の学習を振り返る。(15分) ・出てきた考えを整理する。 ・振り返り→発表 ・次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・○○さんのグループと△△さんのグループの考えを合体させると面白そうだな。 ・ぼくは今日のアイデアを実現するために mBot グループを選びたいな。 ・わたしは絵が得意だからポスターグループで活動したいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表を聞いて気付いたことやひらめいたことを共有することで、次時の活動に生かせるようにする。 ○次時からグループに分かれて活動することを伝え、活動に対する見通しがもてるようにする。

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導計画

5年1組 指導者 北島拓斗

1 指導計画（全55時間）

学習活動	目標	他教科との関わり
Ver. 1 「樺地区の大地のつくりと生態系に着目して田植えを行おう！」（全14時間）		
① オリエンテーション ② 田んぼの生き物調査（水を入れる前） ③ もみまき、苗床作り ④ 樺地区の大地のつくり・田植え ⑤ 田んぼの生き物調査（水を入れた直後）	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼは米作りだけでなく、生き物のすみかにもなっていることを理解することができる。 ・米作りのための工程について課題意識をもち、他教科での学習と関わらせながら解決しようとしている。 	社会科「国際連合」（6年） 理科「食物連鎖」（6年） 理科「植物の発芽の条件」 算数科「面積の単位」 理科「天気の変化」 社会科「国土の地形の特色」 「米作りのさかんな地域」
Ver. 2 「今と昔の農業の違いを意識しながら稲刈りを行おう！」（全13時間）		
⑥ 田んぼの生き物調査（水を入れてしばらく経って） ⑦ 稲の観察 ⑧ 稲を結ぶ練習 ⑨ 稲刈り ⑩ 脱穀	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼは米作りだけでなく、生き物のすみかにもなっていることを理解することができる。 ・米作りのための工程について課題意識をもち、他教科での学習と関わらせながら解決しようとしている。 	理科「食物連鎖」（6年） 家庭科「持続可能な社会へ・3R」 家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」 社会科「昔の道具（3年）」
Ver. 3 「収穫した餅米をたくさんの人に届けよう！」（本時5/16時間）		
⑪ 販売までの準備 ⑫ 餅米の販売	<ul style="list-style-type: none"> ・餅米をよりたくさんの人へ届けるための工夫を主体的・協働的に考え、実現させようとしている。 ・餅米をよりたくさんの人へ届けるための課題をもち、課題解決のための方法を他教科と関わらせながら考え実行している。 	算数科「割合」 国語科「グラフや表を用いて書こう」 家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」 国語科「自然環境を守るために」 国語科「統計資料の読み方」 音楽科・図画工作科 他
Ver. 4 「持続可能な米作りに向けて自分たちにできることを考え提案しよう！」（全12時間）		
⑬ 持続可能な米作りに関する提案 ⑭ 田んぼの会の方々への感謝の会 ⑮ 餅つき大会	<ul style="list-style-type: none"> ・樺西地区の米作りに関する課題を見つけ、自分に合った方法でその解決法を考え、提案する事ができる。 ・お世話になったの方々へ感謝の気持ちを伝えるための方法を、友達と協働的に考え実行することができる。 	算数科「割合」 国語科「グラフや表を用いて書こう」 家庭科「持続可能な社会へ・3R」 家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」 音楽科・図画工作科 他

2 Ver. 3 「収穫した餅米をたくさんの人に届けよう！」指導計画（本時4／16）

学習活動	子供の意識
第1次 mBot を扱う技能を身に付け、販売の際に生かす方法を考える。（4時間） 本時【4／4】	
<p>□学習の見通しをもつ。（1時間）</p> <p>□mBot の扱い方を知る。（2時間）</p> <p>□餅米販売で mBot がどのように活用できるか考える。（2時間） 【本時2／2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Ver.2「今と昔の農業の違いを意識しながら稲刈りを行おう！」でたくさんの餅米を収穫することができたね。みんなで育てて収穫した餅米をたくさんの人に食べて欲しいな。 ・これからたくさんの人に餅米を届けるための工夫をみんなで考えていこう！ ・mBot は動かしたり音を出したりすることができるんだね。これを餅米の販売に生かす方法はないかな。 ・商品を運んだり、音楽を流したりすることができそうだね。他にも方法はないかな。 ・僕たちの販売スペースは二階だから、一階を走り回る宣伝カーにしてみるのはいかがかな。 ・〇〇さんのグループのアイデアが面白そうだけど、実現させるにはどうしたら良いだろう。 ・△△さんのグループの考えは全然思いつかなかったよ。 ・〇〇さんのグループと△△さんのグループの考えを合体させると面白そうだな。
第2次 「椿西ミュージックフェスティバル」への餅米の出品に向けて、販売の準備を整えたり、グループごとに宣伝する方法を考えたりする。（7時間）	
<p>□餅米販売に向けて必要なことを考え、計画を立てる。（1時間）</p> <p>□餅米の商品名考える。（1時間）</p> <p>□餅米の袋詰めを行う。（1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・販売するには袋詰めをしたり、商品名を考えたりしないとイケないね。 ・たくさんの人に興味をもってもらうために宣伝する方法を考えよう。 ・ポスターをはるのはどうだろう。 ・PR動画を撮って、放送するのはどうかな。 ・mBot をどうやって使おうかな。 ・見た人が「買いたい！」と思える商品名をつけたいね。 ・椿西小のキャラクターであるピカッとくとビックハートちゃんの名前からとってもいいね。 ・「つばき田んぼの会」の方々の思いがこもった名前はどうだろう。 ・一袋5kgで袋詰めをしよう。 ・パッケージにイラストやメッセージをつけると買った人が喜んでくれそうだな。

<p>□餅米の価格について考える。 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安い方が売れるんじゃないかな。 ・安すぎると他の農家やお店の餅米が全然売れなくなるかもしれないよ。適当に値段をつけたらいけないんじゃないかな。 ・餅米の値段がいくらか分からないから、お家の人に聞いてみよう。 ・ぼくはお店に行って実際に調べてみるよ。 ・私はインターネットで調べてみるよ。
<p>□グループに分かれて販売に向けての準備を行う。 (4時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・mBot ではお米を運ぶことができそうにないな。他の方法を考えてみよう。 ・「mBot のボタンを押して下さい」と書かれたポスターが欲しいな。ポスター係に頼んでみよう。 ・PR 動画には全員でメッセージを言っているところを入れたいな。みんなに提案してみよう。 ・ポスターと動画はどこに貼ったり流したりしようかな。人通りが良いところがいいな。 ・ポスターに餅米の魅力を伝えるキャッチコピーをのせたいな。みんなに募集してアイデアをもらってみようかな。 ・mBot をただ走らせるだけでは宣伝にならないな。宣伝カーに旗を付けるのはどうだろう。
<p>第3次 「椿西ミュージックフェスティバル」に出品する。(2時間)</p>	
<p>□「椿西作物ミュージックフェスティバル」で餅米の販売を行う。 (2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちの作ったプログラムでお客さんが喜んでくれて嬉しいな。 ・ポスター見て来てくれたと言っていたぞ。あそこに掲示して良かったな。 ・mBot の動きがまっすぐ動くだけでは面白くなかったから、プログラムをもう少し工夫してもよかったな。 ・買った人が重たそうに運んでいたから、車まで運ぶサービスをして良かったね。
<p>第4次 学習を振り返る。(1時間)</p>	
<p>□学習を振り返る。 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・販売を通してたくさんの人に餅米を食べてもらったよ。 ・グループで出た課題をみんなで協力して解決することで、販売の成功につながったよ。 ・僕たちの育てた餅米がたくさん売れて嬉しかったな。たくさん工夫をしたからだね。 ・商品を販売するのはとても大変なんだね。農家の方々の苦勞がとても分かったよ。社会の学習で、農家の若い人の割合が少なくなっていると知ったよ。働く人が少なくなると椿地区の農家がつぶれてしまうね。どうすれば椿地区の農業がこれからもずっと続いていくのだろう。